

み かわ ぶつ だん 美 川 仏 壇

○美川仏壇と湊屋村次郎

美川仏壇は、今から約500年程前の応仁時代（1467）に小松長吉によって始められ、慶長の頃六代長次が現れ、声価が高まったと伝えられています
が、確かなことは判明していません。

寛政年間（1789）には美川仏壇独自の「堆黒」を考案した、湊屋村次郎が現れ、村次郎は、分業であった工程をすべて習得し、一人で仏壇を製作することが出来る職人として名声を高め、美川仏壇の名を全国的に広めました。

また、今から200年程前の藩政期には本吉村（現白山市美川地区）は北前船の根拠地として栄えており、仏壇が北前船に荷積みされ日本各地に送られていた
ようです。村次郎は、今から約150年程前の安政6年（1859）に64歳で
没しましたが、その技能を伝習した人々によって、伝統の工芸は維持されてき
ました。昭和63年（1988）には、石川県伝統工芸品に指定されました。

○美川仏壇の特色

美川仏壇は、「堅牢」・「荘厳」・「華麗」といわれています。現在でも各工程を
手作りで製作しており、化粧合板や、化学塗料は一切使われていません。

美川仏壇の最大の特色と言われるのが、湊屋村次郎が考案した堆黒です。本来の
堆黒といわれるものは、幾層にも漆を塗り重ね、その層に模様を彫りだすとい
う大変手間のかかるものです。村次郎の考案した堆黒は、型を用いることによ
り同一規格で多く仕上げることが出来ます。さらに、堆黒は型による彫りに金箔
を施しますが、これによって金具の質感を表現でき、海辺にある地元にあって、
金具にあらわれる錆を防ぐことにもつながっています。

堆黒は大変高度な技量を要する漆芸であり、現在でもこの堆黒を用いているの
は、美川仏壇だけなのです。

戸裏や障子の縁などには、「根来」・「あけぼの」などと呼ばれる様々な手法の
研出しが加えられます。

全ての工程に最高の素材を用い、熟練された技で一つ一つ手作りで製作され
ていることも美川仏壇の特徴で耐久性は300年といわれています。